

杉田 雄二

昭和 46 年卒業(第 30 回)



前会長からの退任挨拶

平成 24 年、会員数 6000 名を超える東山会の会長職を拝命して以来、理事の皆様と会員の皆様の温かいご支援を受けて、2 期 4 年間滞りなく会長職を務めることができました。関係各位に深く感謝申し上げます。

私が会長に就任した当時の課題は、東山会への関心をより若い世代にまで広げ、総会・新年同窓会への参加者も増やすことと、業務や異動が増大している大学関係者の、東山会運営の負担を軽減することでした。前々会長の水野清史様の時代に実施していただいた構造改革で財政の収支バランスがとれましたが、大学関係者の人的負担が大きいことが課題でした。

最初の課題については、「卒業年次を超えた交流の価値創造」を追求しましたが、残念ながらよいアイデアが見つかりませんでした。せめて総会・新年同窓会への出席者を増やそうと、関心の高い特別講演を企画するとともに、50 歳、51 歳になられる会員へのレターによるお誘いや、新入会員である修士課程の学生への勧誘などを行いました。結果は残念ながら現状維持に留まりました。

二つ目の課題については、「活性化に向けた企業会員の支援」に取り組みました。東山会は会計や広報、そして名簿管理など学内でしかできない活動が多いこともあり、企業理事の皆様には各イブニングサロンを分担して引き受けていただくことにしました。一方、学内理事の人的負担を少しでも軽減するために、まず東山会名簿を全学同窓会名簿と一元化することにいたしました。実際、すでに多くの会員、特に若い世代は全学同窓会に最新情報を登録する傾向が強く、東山会との 2 重管理は弊害も目立つようになっておりました。東山会名簿管理の外注費も削減することができました。これについては、両名簿の照合作業を終えて、東山会

から提出したデータを全学同窓会で入力作業中であります。

うれしいこともありました。それは複数の会員の方から多大なご寄附をいただいたことです。そこで東山会基金の有効な活用を議論し、東山会基金運用規程の事業に「学生海外留学支援事業」を追加する改訂を行いました。

この4年間、関東支部や関西支部の総会にも参加し、多くの会員の皆様と触れ合うことができ、貴重な体験をさせていただきました。こうした体験を皆さんが共有できれば「卒業年次を超えた交流の価値創造」に繋がるかもしれません。新会長の土屋総二郎様のリーダーシップの下で、東山会がより発展することを願っております。